



社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第66号2015秋』

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会(けいよう)/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177



“さざんかキッズ”誕生に思う 社会福祉法人 さざんか会 理事長 宮代隆治

この七月、さざんか会八番目の施設として児童発達支援センター「さざんかキッズ」が誕生しました。足かけ三年にわたり取り組んだ大事業でした。

今回、完成までに苦労させられたいくつか事項がありました。先ず、国からの建設助成金内示が遅れてしまい、結果入札や工事着工も遅れて開園が当初予定の四月には間に合わなかったことです。



このため、四月からの三か月間、市立運営であった「さざんか学園」を借り受けて、定員四十名で事業を行いました。これは、四月から入所を希望された方の希望が叶えられない事態を引き起こしました。開園を今か今かと待望していらした方々を悲しませてしまいました。そして、お叱りも受けました。

おーぷん66号紙面
P1-2 さざんかキッズ 誕生に思う
理事長 宮代隆治
P3 権利擁護はいま 育成会副会長 高橋正子
P4~6 □さざんかキッズ特集
P4-5 さざんかキッズ開設とこれからの児童発達支援について
管理者 齊藤幸子
P5 さざんかキッズに期待すること
保護者 三浦あかね
P6 さざんかキッズ 紹介コーナー
□各事業所夏だより
P7 カメラハウス
P8 ゆたか福祉苑
P9 とらのこキッズ さざんかキッズ
P10 けいよう 65号読者感想
P11・12 北総育成園
P13 笹川なすな工房
P14-15 ランプ発
P16 後援会活動報告

次は、建設ブームの象徴である東京オリンピック・パラリンピックを控え、建設費の高騰や人手の確保等が想定外の状況であったことです。入札参加事業所を確保することも厳しかった。折から、公共事業の入札不調の情報が全国各地から聞こえて、心中穏やかならざるものがありました。

資金の問題も大きかった。建設費はじめ、今回の事業遂行に当初は約一億円の自己資金を充てれば済むはずが、結局その倍近い額を用意しなければならなくなりました。これには、法人各事業所の積立等を崩して協力して貰いました。

保育士等の人材の確保や専門職の確保も課題でした。福祉職全般に人材が不足している昨今です。果たして、子どもたちの療育を託すに充分な人材を必要とだけ確保できるか。様々な機会を設けて、この確保に努めました。

この他にも、課題はありましたが何とかクリアしながら開園を迎えた次第です。

施設を一つ作ることに、かなり心身ともに疲労感があります。同時に、達成感も当然に。建物は建物に過ぎず、肝心なことはそこを利用する人たちにとって、ということなのです。

「さざんかキッズ」はそこに通う子どもたちにとって、心身の成長を促し、発達を保證する営みの場であればなりません。そして、それを見守るご家族にとっても、信頼と希望を感じ取って頂けるような、事業所集団でなければなりません。

昔話して恐縮ですが、平成三年才



「ゆたか福祉苑」建設の時を思い出します。当時は、施設は措置費によって運営されていました。措置費は、次の事業に要する費用の蓄積等皆無の世界で、

ほぼ禁じられていました。施設作りは公的助成、福祉医療機構からの借入、そして寄付金等により賄われることが当然でした。国の制度上は例えば、一億円の建物を作るとすれば、公的助成でその三分の二は賄える仕組みでした。しかし、実勢単価との差が大きく、実際半分程は寄付金や借入で賄わなければなりませんでした。

当時、そのような蓄えの全く無い法人でしたので、自己資金作りは難問でした。先ず、育成会員に一口五万円のご寄付を呼びかけました。すると、多くの会員さんからご寄付が寄せられました。目前に「ゆたか福祉苑」を必要とする人たちがかりではなく、趣旨に賛同して下さる皆さんからです。次に、つなぎ資金として一口二十万円の融資を無利子でお願いしました。これも、多額の融資を受けることができました

そして、何より船橋市から多くの助成を頂戴できたことが有り難かった。

この後も、施設づくりを期して育成会を中心に資金作りに奔走して来ました。バザーやチャリティショーの開催。歩行者天国での出店。真夏、海浜公園プールでの売店活動も思い出です。

大変な思いをして施設をつくる、船橋の育成会は率先して実行して来ました。「今は苦労かもしれないが、後から来る人たちもきつと喜んでくれる、良かったねと言ってくれる」そんな確信があるからこそできたことだと思います。

「さざんかキッズ」の誕生、今朝も送迎のバスからリュックを背負った、可愛い子どもたちが降りて来ました。保育士さんの笑顔がお出迎えです、「お早うー!」。そんな光景を見るにつけ、少々の苦労など雲散霧消です。「さあ、今日も一日元気に暴れ回って頂戴ね」。

権利擁護はいま

夢が叶ったグループホームでの生活

船橋市手をつなぐ育成会副会長



高橋 正子

「私に何でもできるという方を対象にしている」という認識でしたので、とても我が娘には遠い存在の話と受け止めていました。

娘は現在40代です。日中は「けいろう」で過ごし、夕方より翌朝までグループホーム”さざんか荘”でお世話になっており、日々良い状態で楽しく過ごしているようです。

私にとっては夢に描いていた通りの生活になった訳です。というのも、娘が10代の頃、グループホームのこととは時々耳にしていた記憶はありますが、当時のグループホームに入居させていただけるのは知的に高く、自立

しかし、将来を考え例えグループホームに入居できなくても親として娘の自立に手助けしなくてはと色々なこと（自主通所、身辺自立）に挑戦させることを考えました。

まず始めたのは通所が一人でできるようににと思い、片道家から作業所で一時間弱、電車を乗り継ぎ目的の作業所まで行くことを目標にし、後から本人に気づかれないように行ったり、また一人での行動時間を徐々に

に長くするなど、試行錯誤しながら取り組み、数か月後位から一人で通所できるようになりました。兎に角心配でした。同じ作業所に通うお母様はじめ沢山の方々の手助けがあったのも事実です。ありがたかったです。

次に挑戦したのは、ショートステイの利用です。最初は一泊から始め徐々に回数を増やしていき、ました。娘も家とは違った雰囲気の中、お友達との生活を満喫していたようです。とはいえ施設で何もなかった訳ではなく、今まで経験のなかった事柄が多々あり、本人はそれなりにその場を切り抜け自衛していたようで、施設の職員からその辺りのことを報告いただきました。経験が娘を成長させたのだということを実感しました。

年月が経ち、さざんか会でもグループホームの話が始め、重度の人でも利用できるということに耳にし、また、実際に運営を始められたことを聞き驚きました。娘にもいつの日かこのような機会が来るのではと夢を抱いた時

期がありました。4年前、担当職員に「将来はできればグループホームで生活させたい」と希望を伝えてみました。伝えてはみたものの頭と心は別で、もう少し色々なことを身につけさせてから」とか、”もう少し年齢が高くなったら”と矛盾した気持ちが錯綜してしまいました。しばらくしてグループホームに空きがあり入居させていただくことができました。何となく言葉もなく世話人さんとの意思疎通ができるのかと心配しました。兎に角すべて世話人さんにお任せしようと決め問題が出たらその時考えるということにしました。案ずるより産むが易しではありませんが、入居させる前と後では娘も随分と成長したと感ずることが多々あります。

週末には娘が帰宅します。待ち遠しく思いますし私自身少し心に余裕が出てきました。これも偏にホームに關わっていただいている世話人さんはじめ職員のお蔭と感謝しています。私時間的にもまた心の余裕も出てきましたので、現在、ボランティアの気持ちを育成会のお手伝いに使っています。

さざんかキッズ開設特集

さざんかキッズの開設と

これからの児童発達支援について

さざんかキッズ管理者

齊藤幸子



平成27年7月1日、長い長い、本当に長い準備期間を経て『さざんかキッズ』がスタートしました。日々の業務に加え、新しい施設の立上げとばたばたとしていましたが、ここへたどり着くまでに多くの皆さんのご支援ご協力を賜り、感謝の念で堪えません。本当にありがとうございます。

船橋市による『新設児童発達支援センター設置及び運営事業者選定委員会』による選定を経て、『さざんか会』が設置運営事業者に選定されたのは、ちょうど2年前の平成25年7月でした。平成27年4月の開設を目指すと言われていましたので、これだけの大きなプロジェクトをわずか1年8カ月という短い期間で成し遂げなくてはならないという重圧に、大きな不安を感じずにはいられませんでした。

翌8月に、設計・管理を『株式会社社新中央設計東京』様に決定し、10月から定期的に設計、図面作製に関わる打合せ会議を何度も実施し、他の療育施設を見学したり資料を取り寄せたりと支援を必要とするお子様達が毎日充実した時間を過ごせる様に、より良い施設環境を目指しました。

特に設計士さんには、利用されるお子様の状況や特性をよく理解していただき、それにより添った設計をお願いしました。これまで多くの保育園を設計されてきた設計士さんにお会いできたことは、大変に心強いものとなりました。

「新設」とは言いながらも、船橋市内の施設の数が増えるわけではなく、老朽化の進んだ公立施設『さざんか学園』の閉園に伴う移転増設が大きな目的の一つで、新施設建設と並行しながらさざんか学園の保護者の皆様に対して、民間事業所に移行することの不安解消と工事の進捗状況についての説明のために『さざんか学園』を訪ねることもしばしばでした。

その一環として『とらのこキッズ』より保育士を派遣し、移行後の利用がスムーズに進むよう引継ぎ業務も行いました。

限られた期間での不安を抱えながらの引継ぎとなりましたが、それ以上に『とらのこキッズ』利用者の皆様には、大変に不安な一時期をお願いするような形となり、多大なご迷惑をお掛けすることとなりましたが、皆様のご理解とご協力をいただき、おかげさまで順調なスタートを切ることができています。本当にありがとうございます。

平成26年9月には、施工業者も3社の入札により『旭建設株式会社』様に決まり、本格的な工事が始まりました。

残念ながら、当初予定した平成27年4月のスタートには間に合いませんでしたが、6月29日に建物が引き渡され、どうにかこうにか7月1日の開園にこぎつけることが出来ました。

竣工と同時に『さざんか学園』から引続きご利用いただく34名のお子様、新規利用となるお子様38名と合計72名でのスタートとなりました（うち知的障害児67名、肢体不自由児5名）

スタートにあたり、利用希望面接の段階で懸念されていた年少のお子様全員の受入れは出来ましたが、しかしながら船橋市の人口は年々増加傾向にあり、現在の人口62万人、それに伴って利用ニーズが増えることは明らかで、「質・量」とともにサービスの絶対量が不足していることは否めません。

『さざんかキッズ』と『とらのこキッズ』でそれらのニーズに添えていけるのか。いえ、添えていかなくはならないのですが、目の前の課題としてこれから利用が見込まれる待機児童の解消や肢体不自由児の受入れ、職員の確保、そして、児童発達支援センターとしての本来の役割、地域に向けての支援や相談も展開していかなければなりません。

早期療育という一番大切な時期に関わりを持ち、家庭や地域、保健や医療・教育といった関係諸機関と連携してお子様一人ひとりにあった療育を提供して次のステージへ繋いでいく。その入口にある私達施設の役割と責任を自覚し、保護者の皆様や療育支援課と連携を取りながら日々の支援に当たってまいります。

「建物は新しくなったけど」と批判を受けないよう、その療育の充実に力を入れ「さざんか会で良かったね」と安心していただけるようここにたどり着くまでに走り続けてくれた職員と新たに加わった職員と一丸となってお子様達の日々の成長を糧に邁進致します。

最後に繰返しになりますが、たくさんの方々に言葉に出来ないほどのお世話になりました。そして大きな一歩を踏み出した『さざんかキッズ』をこれからも見守っていただけたらと思います。

さざんかキッズに期待すること

さざんかキッズ保護者：二浦あかね



今後のさざんかキッズに期待することは大小たくさんありますが、私が願う一番大きなことは進化です。

これまでさざんか学園ととらのこキッズで長年行ってきたことでよかったことは続けながら、他市や他県、他国の療育のいいところを少しずつでも取り入れていって欲しいと思います。船橋市は大きな市の割に福祉の面で遅れているといわれています。さざんかキッズは民営化したことで将来的に出来ることの幅が増え、規模が大きくなったことで色々な可能性も増えると思います。

今後療育を必要とされる子供が増えるに連れていくといわれている中で、さざんかキッズには船橋市の療育の未来を担う大きな存在として、更なる向上を目指してほしいと願っています。

さざんかキッズが開園して3ヶ月が経ちました。7月入園の園児たちも少しずつ園での生活に慣れてきたように思います。

さざんか学園からの継続児も、4月に先生が変わり、7月から場所も変わり、初めは親子共々戸惑いがありましたが、先生方と話し合い、コミュニケーションをとっていく中でお互いの信頼関係が築けてきているように思います。

さざんかキッズ



自然あふれる行田公園の近くにオープンしました、さざんかキッズ。今回はさざんかキッズをクラス担任に紹介してもらいます。

おススメスポット①プール☆



すみれ組には潜りの名手と水鉄砲の名手がおり、毎回ピツクリさせられます。今年の夏は後半の天候不安でなかなか入れませんでした。屋上にプールがあるのでリゾート感覚です♪

おススメスポット②

わくわくルーム☆

なのはな組のみんなはボールプールが大好き☆ボールに埋もれたり、マットに向かってボールを投げたり思い思いの過ごし方

をしています。夏祭りでも登場した「ふうせんのうみ」では最初、心細そうな表情だった子ども達も段々慣れてきて入れるようになりました。

おススメスポット③

わんぱくルーム♪

開園式や集会が出来るわんぱくルーム☆トンネルやオーシャンスイングが大人気のおじさい組。はしごや平均台にも果敢に挑戦しています。わんぱくルームに行ける日をいつも楽しみにしています♪

おススメスポット④園庭♪



ゆり組から見える魅力的なスポット☆「たいてや、ホイッ」の合図とともに芝生を駆けて遊具へ！毎日元氣いっぱいです☆夏にはビニールプールを出して水遊びをしました。砂場には砂山が・・・☆

おススメスポット⑤

プレイルーム☆

にじ組では最近個別リハを始めました☆一人ひとりの手先や身体全体の状態に応じてプログラムを考えます。斜面を作ったり、揺れ具、歩行器、バランスボールなどがあります。立位や自分で進もうとする子ども達をサポートする部屋です。



(左から)フレキサースイング・バランスボール・SRCウォーカー・バランスボール中

おススメスポット⑥

音楽ルーム♪

音楽療法を行う部屋です。ふたば組の子ども達は行進や楽器操作が大好き☆音楽がない日はソフトラックが入っている段ボールの中を「文(あや)先生はどこかな〜?」と音楽の先生を探す姿がとても可愛らしいです。

おススメスポット⑦のバス☆

あか・あお・みどりバス(車体は黄色ですが…)の可愛らしい三台があります。七月は不安そうな表情だったもも組。今では朝バスを見ると「早く乗りたいな♪」とウキウキです。園に着くと「おはよう〜!」と元気一杯です♪

おススメスポット⑧給食☆

毎日温かい給食が運ばれてくるのを楽しみにしているちゅーりっぷ組♪それぞれ楽しみなメニューは違いますが「お皿、ピカピカ」目指して毎日「おてて、パッチン☆いただきます!」を元氣にしています。



左；行事食☆うなぎのせちらし風ごはん
右；みんな大好き豆腐ハンバーグ♪

☆見学にいらしてっください☆

カメラリアハウス

なしたみ
〜夏便り〜

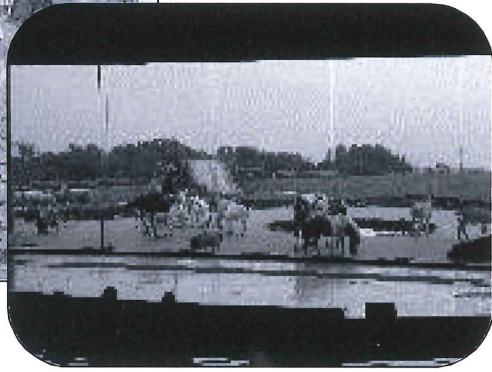
カメラリアハウスの夏の行事と言えば、毎年恒例の一泊旅行です。今年の旅行先は「千葉県、南房総」！ 県内ということもあり、移動にも余裕があつてゆつたりと過ごすことが出来ました。当日は台風と重なってしまい、悪天候に見舞われてしまうこともありましたが、無事に行つて来ることが出来て良かったですね。

スタッフのつばやき

今年のさざんか会は7月にオープンした「さざんかキッズ」、児童福祉の領域に焦点が当たっていくことと思います。日々、成人の方の支援にあたる中で、児童期の療育の重要性をひしひしと感じる場面に出会うことがあります。多岐に亘つて様々なサービスを展開するさざんか会。一つひとつの事業所が重要な役割を担っていることは言うまでもありませんが、児童期の支援・療育のことは勿論、利用者さん一人ひとりの未来について考える一つのきっかけになればと思います。(生活支援員：駒田)



おーぶん66号P7



パウンドケーキ

価格改定のお知らせ

いつもカメラリアハウスのパウンドケーキをお買い上げ頂きありがとうございます。この度、原材料価格の高騰や消費税率上昇の為、現在の価格設定での販売が厳しくなつて来ております。つきましては検討を重ね、価格の変更をさせて頂くことになりましたことをお知らせさせて頂きます。

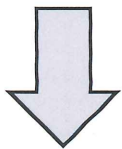
旧販売価格：1本を12切れにカットしたものが50円

新販売価格：1本を8切れにカットしたものが100円

以前より一部から要望を頂いていた、厚めにカットしたものに變更し価格を上げさせて頂きました。また、1本での販売も800円とさせて頂きます。

倍の価格になることで皆様抵抗感を持たれてしまう部分があるかとは思われますが、皆様にお買い上げ頂いた売り上げが利用者さん達のお給料になっていきますことをご理解頂き、今後もカメラリアハウスの製菓販売にご協力を頂けたら有り難く存じます。

12切れ
(従来品)



8切れ
(改定品)



厚みは約1.5倍になりました！

秋便り

『いよいよ始まる改修計画』

7月1日に24回目の開苑記念日を迎えたゆたか福祉苑は、来年度（平成28年度）からの建物改修工事を予定しております。今年度はその足掛かりとして、建物が現在どのような状態にあるのかを知るため、専門業者による調査を行う事とし、既に一次調査が6月20日に行われました。調査の報告も既に受けており、改修における優先事項も示して頂きました。以下にその内容について、簡単に記させて頂きます。本館については、建物構造の強度が保たれており耐震面での心配は無いとの事ですが、屋根の張り替えや外壁の修繕を急いだ方が良いでしょう。また、内部設備（電気配線、照明器具、空調機器、上下水配管等）



太鼓頑張っ
て叩いてま
すね！



稲葉（右）細根（左）の二人の司会

は、全般的に更新が必要との報告でした。新館についても屋根や外壁の改修が本館同様に必要で、内部設備についても多くの機器について更新が求められるとの事です。耐震面については、大きな地震で倒壊してしまうような危険は薄いものの、構造上本館よりも揺れが大きくなる可能性が高く、揺れを抑える補強を施す事を薦められています。今後はこれらの報告内容を基に、具体的な改修計画を作成していく作業に入っていきます。大規模な改修となりますと当然大きな額の資金が必要ですが、その分法人の自己資金で賄う事が困難になります。福祉貸付事業の活用など、資金上面の計画が当面の取り組み課題となっています。改修工事の先に、ゆたか福祉苑がどのように生まれ変わるのか。また追ってご報告できればと思っております。

尾村 勉

『納涼祭を終えて』

厳しい暑さもようやく和らぎ、朝夕は爽やかな秋風も吹く時節となりました。皆様如何お過ごしでしょうか？日頃より苑行事にご協力下さいますありがとうございます。今年度も、7月25日（土曜日）育成会との合同納涼祭「ゆたかの夕べ」を開催致しました。天候にも恵まれ準備から本番当日までアクシデントなく（アクシデント好きな私はちょっとびり残念・・・）去年同様、保護者様の方、他事業所職員、ボランティアの皆さんに助けられ無事終了する事が出来ました。もっと楽しく、無理なくご参加出来るお祭りを開催したいとの思いから、育成会の皆さん、利用者さんの事を考え、毎年暑い夏に開催していた納涼祭「ゆたかの夕べ」は今年度で最後という心持で行いました。主婦にとっては洗濯物を洗い、すぐ乾くという季節はとても嬉しく思いますが、外に出るのがしんど



ご利用者さん踊るにそう楽し

くなります。外に出るのがしんどい・・・と思っているのに今年もゆたかの職員がお互いを思いやり、協力し合い、疲労感があっても笑顔絶やさず明るく元気に職員一丸となってゆたかの夕べの準備、当日を迎えました。

17時開会式、盆踊りから始まり、八千代フェスティバルバンド、クラリネットアンサンブル、フラダンス、毎年恒例ゆたか福祉苑新人による出し物、再び利用者さんの大好きな盆踊り、最後を飾る打ち上げ花火。というプログラムで行いました。どの出し物も完成度が高く、お客様に満足して頂けたのではないかと思います。

嬉しいことにペンシルバールの方々は各テーブルに来て下さり開会式から終りまで風船作りをして下さいました。本当にありがとうございます。職員間で感じた助け合う事・支え合う事を経験できた、この暑い夏のお祭りに感謝しながら、利用者さんのご家族が立ち上げて下さった育成会を大切に考え、利用者さんの思い、ご家族の思いを汲み取りながら、今まで積み重ねてきた様々な繋がりを大切に、来年度は新しい形のお祭りを開催したいと思えます。来年もよろしくお願ひ致します。

豊田 輝美

わが園のキッズ

〜夏〜



暑さが和らぎ、過ごしやすい季節となってきましたね！秋号ではこのキッズの夏の様子を振り返ってご紹介したいと思います。

まずは・・・7月からプールが始まりました☆昨年度まではビニールプールでしたが、今年からは大きなプールがやってきて、子どもたちは大はしゃぎ！毎日「きょう



プール

泡遊び

プールある？」と確認する子もいるほどにみんなプールを楽しみにしていました！また、園庭では水遊びや泥遊び、泡遊びやボテイペイントと、夏ならではの遊びを体全体で楽しみました♪

夏祭りに飾った、子ども達の作品です☆



わが園かキッズ

〜夏祭り〜



八月二十二日(土)さざんかキッズでの初めての大きな行事「夏祭り」が行われました。テーマは「アンパンマン」。装飾はもちろん、アンパンマンに因んだボウリングコーナーやプラネタリウムなどのプログラムを用意しました。

職員はこの日のために用意した緑色の「さざんかキッズTシャツ」に身を包みお出迎え☆みんな、祭りの仕様の園内に大はしゃぎ！オープンイベントではアンパンマンお神輿も出てきて大興奮！

アンパンマンプログラムに付いていたチケットで子ども達が作った「金魚」や「ペロペロキャンディ」の製作物と交換することが出来、お買い物感覚を味わうことが出来たようです。他にも世界で一つのエコバックを作る手作りカバンコーナーや、ヨーヨー釣り、風船を敷き詰めた「ふうせんのおみ」などみんなが楽しめるコーナー目白押しで子ども達は「どこ

かに行こうかな？」と目を輝かせていました☆
いつもとちょっと違うさざんかキッズに戸惑う様子を見せる子ども達もいましたが、最後は各クラスでいつもの「さよならタイム」をみんなと一緒に言い、お土産をもらったらにっこり笑顔。夏の良い思い出になったかな？



アンパンマンのお神輿、アンパンマンの提灯♪

☆お手伝いをいただいた他事業所のみなさま
物品販売、ボランティアなどご協力ありがとうございました。
☆保護者のみなさま
ご参加ありがとうございました。

けいよう

前号でも紹介をさせて頂きましたが、畑で野菜作りをしています。今年の夏は胡瓜、茄子、唐辛子、南瓜、しそ、さつまいも、ピーマン等を利用者さんと育てました。毎日、水やりや草取りで大変でしたが、今年は大豊作で野菜は、バザーにも出店しました。その他にもラベンダー石鹸ビーズの指輪等を利用者さんと作り、こちらにもバザーに出店し、大反響でした。

今年は記録的な猛暑でとても暑い日が続きましたが、皆さん汗をかきながら、頑張って歩かれ、暑い日乗り越えました。また、毎年恒例のプール活動にも行ってきました。4グループに分かれ、市川市民プールとクリーンスパ市川に行って



きました。夏の暑さを吹き飛ばすようにプールが気持ち良く、皆さんとても楽しまれています。大満足な笑顔を見ることができました。

今後も電車活動や外出行事等利用者さんが楽しみにしていることが沢山あり、皆さん心待ちにしていると思います。

おーぷん65号 読書感想コーナー

新年度が始まり、早いもので、約半年となりました。

65号を読んで私が一番気がかりだったのは、ヒヤリハットの件数が多い事でした。転倒や投薬ミス等、職員不足から連携がとれない事や職員間のコミュニケーション不足等によりヒヤリハットが多い原因だと思えました。その為には、利用者さんとご家族に信頼されるように、職員が一つになって意識を高く持って支援に取り組んで行かなくてはいけないと思えました。

65号では新体制を中心に様々な紹介がありました。次号でもどんな各事業所の紹介があるかとても楽しみにしています。

けいよう職員 高井俊樹

「ある朝の出来事……」

を読んで

けいよう保護者
加藤恭子

おーぷん65号で気になった記事は、「ある朝の出来事」でした。おしぼりが紛失しないように、はじめから手から手へ届けていたなら起きなかつたことで、配達業者やお店側にも問題はあつたと思います。

自分の行動に対して自分の言葉で弁明できなければ、ただ受け入れるしかないとしたら、何か不公平だと思いました。



北総の里だより



北総育成園夏季職員研修報告

副園長 白樫久子

長崎研修 八月六日～八日

職員 白樫久子・斎藤到・藤原加奈

利用者 堀川明美さん

佐々木淳子さん

北総育成園では、毎年利用者の帰宅期間を、職員研修期間としています。福祉や障害者施設だけに限らず、各地に出向いて普段関われない自然や人々とふれあい、自身の見聞を広げそして北総の仕事に生かしてほしいという武井園長の思いから毎年続けられています。今年は長崎研修報告です。

8月6日コスモスの会の皆様が盛大に出迎えてくれました



平成三年に姉妹提携し以後二十三年間親しく交流を続けさせて頂いている社会福祉法人コスモス会（長崎県南島原市）を訪問しました。平成四年六月にあの普賢岳の大噴火、島原は火砕流と土石流で大きな被害を負いましたが、理事長本田利峰先生が先陣をとり地元の障害のある方とその家族関係者の為に大変尽力され、今でも地元島原で法人事業が大きく展開されています。

八月六日午後一時半、我々五人がコスモス会さんを訪れると、理事長先生はじめ利用者職員の皆様が盛大に迎えて下さいました。グループホームに生活介護事業所、単独短期入所事業、就労継続B型事業、児童デイサービス、訪問介護他様々なニーズに対応した事業を行っています。市の指定管理事業で運営している「論所原キャンプ場」で懇親会を開いて頂きましたが、お弁当やパーティ料理の仕出しを行っている「正健」(A型事業所)さんの料理は地元の新鮮な素材をふんだんに使った美しくおいしい食事でした。

また、コスモス会では「ゆりかごから墓場まで」と、霊園も経営しています。すでに亡くなった利用者も数名埋葬されていますが、今年は新しく立派な本堂が建立されていました。元大工の職員さんと利用者の手作りでした。親亡き後身寄りなくても安心できるようにとの理事長先生のお考えです。



8月7日 長崎平和公園に北総の千羽鶴を届けました。

どんなに障害を持っていても大人として働き社会の役に立つこと、そして年をとったらその人らしく充実した人生を送らせてあげたい。ぼろぼろの服を着て過ごし死んだら残った年金を知らない親戚が持って行ってしまふ、そんな悲しい人生にはしない。その人が幸せだったと思える生活を一緒に作っていききたいという強い思いを、息子さんであり事業本部長の利一郎さんからもお聞きしてきました。

北総も平均年齢は五十四歳。最高年齢は七十八歳です。この十年ほどは利用者も毎年数名亡くなり、今年も何人かの保護者が鬼籍に誘われました。今後ますます大きな課題を背負い立ち向かっていかねばなりません。今回研修に同行してくれた利用者の二人はすでに帰る家はありません。今回は久しぶりの飛行機旅行を笑顔で楽しんでくれました。そして真剣に責任を持って研修に臨んでくれました。

この研修の大きな目的の一つは北総の皆で折った千羽鶴を、長崎平和公園に届けること。堀川さん佐々木さんも折鶴を中心となって作ってくれました。真剣なまなざしで千羽鶴を届け、お祈りしてきました。私は二年ぶりの長崎でした。多くの方々が平和公園や原爆資料館を訪れていました。戦後七十年、日本は唯一の被爆国です。

二泊三日の暑くも短い研修でしたが、五人でたくさんのごとを見て聞いて感じてきました。この人たちの今一步の幸せの為、我々職員はうんと心を敏感にして勉強していかなくては。この人たちは守れません。今後もこれまで北総を築いてくれた先人の理念と実践を大切に、これからの仕事に精進してまいりたいと思います。

一番戦争から遠い国でなくてはならないはず。千葉の北総育成園では、今年も4つの千羽鶴を各地に届けました。一つは長崎、一つは広島へ（武井園長の古い友人であるひとは作業所の寺尾先生にお願いしました）、一つは沖縄へ、そして一つは宮城県巨理町です。（あの東日本大震災で大きな被害を受け今でも避難生活を多くの方が送っています。）



笹川なずな工房

夏の思い出

支援員・金島礼奈



笹川なずな工房では、夏と言えば毎年恒例ビアガーデンを今年も行いました。厳しい暑さが連日続いていた為当日も心配しておりましたが、日差しが弱く暑さはあったものの風もあり、皆一日元気に楽しむ事ができました。就労した加瀬さん、網中さん、宮内さんと、日中一時利用の嶋田さん、鈴木さんの計5名の特別参加もあり、時の経つのを忘れて就労先での様子を話したりしながら楽しく過ごす事ができました。こういった行事ではOBの方の参加も誘い、就労後の話が出る良い機会ともなっています。

午前中は全員での会場準備。男性利用者さん、男性職員を中心にテント、コンロ等の会場準備を。料理は、利用者さんからのリクエストがふんだんに出され、BBQ、焼きそば、たこ焼き、から揚げ、野菜スティック、じゃ

がバタ、農産加工班の茄子の揚げ浸しと定番の料理から昨年より人気の料理を提供しています。今年は、新しいものを！と、夏に食べて尚美味しいおろし納豆餅を、お餅をつけてパフォーマンスタとして準備しました。皆で美味しく頂きました！パン班は東庄盆踊り大会でアンパンの大量の注文を頂いており、製造から納品と作業。突然の停電のアクシデントがあり、パン班のオープンがストップしてしまう中、なんとか復旧し、時間通りに納品する事ができました。

施設長挨拶、課長挨拶、作業班代表として各班で飯田さん、神岡さん挨拶、最年長功労者の田中さんの元気な「かんぱーい」の声でビアガーデンが始まりました。テーブルに並んだ数々の料理をおいしそうに食べ、皆でBBQが次々に焼き上がりお肉や魚介類も

沢山食べました。テーブルにも沢山メニューとなる料理が沢山並んでいました。席を立ててBBQを取りに行っているのは若者たちの列。BBQの方はお肉を早々に焼き丁度良い量でした。ゲームの方は作業班対抗クイズゲーム、めっちゃギントン、リレーと3種目行いました。クイズゲームは工房では定番となっているゲームですが、イントロやOXクイズ、三択クイズなど、色々揃え、盛り上げています。めっちゃギントンは新ゲームという事もあり、やり方として少々難しい所もありましたが、前の人のやる事、職員のマイクパフォーマンスで大盛況に会場が一つになりました。リレーでは「フーフーフで縄跳びをする高度な技を一番に↓豆腐一気食い↓コーラか牛乳でのどを潤す」という障害物があり、全力で走り、応援の声に答え、次々と現れる障害物を、面白おかしくクリアしてのリレーとなりました。作業班対抗パフォーマンス対決、カラオケ、スイカ割り、お餅、流しそうめんと順調に進みました。スイカ割りは皆が参加し、流しそうめんも裏山から竹を切り出し、半分に分けた手作り流しそうめん、毎年の催しとして食べやすいと

いう事もあってか多くの方がめんつゆとお箸を持って待ち構えていました。お餅を出す頃には皆お腹いっぱいになっていました。最後には皆で工房の締めとなっている「世界にひとつだけの花」合唱、成績発表。今年はパン班の優勝！MVPは日中一時利用の嶋田彩乃さん。パフォーマンスで見せてくれたダンスが刺激的でした！施設長より総評、景品贈呈が行われ今年のビアガーデンは終了しました。最後は全員でテントやテーブルの片付け、掃除をし、楽しかったゲームの話をして閉じました。



ランプ発

ランプ発 居宅管理者 .. 山田朝広



こんにちは。ご無沙汰しております。久しぶりに「ランプ発」を書かせて頂きます。以前、フジテレビの9時前に「レインボー発」というニュース番組があったのですが、私の身内にそれを「レインボー発」と呼んだ者がいたことを思い出しました。これは縦書きですが、本人曰く横書きにすると間違えるようです。私は間違えなかったのですが…。

さて、今回は「魔法のランプのサービス内容」について触れたいと思っております。

まずは『移動支援事業』です。6月より新設された『通学通所支援』と『移動介護』という2つの事業に分かれています。基本的には前者は定期的且つ長期の学校や施設への送迎を利用される場合となります。

後者は、純粋に余暇活動の利用となります。二つを併せた総称を「移動支

援事業」と言いますので、申請時に

「通学通所支援」をご利用される場合には一言申し出た方が良いでしょう。因みに一時的な送迎については事業所側で船橋市に確認を取り、許可された場合にのみ利用が可能となります。ご依頼時には事業所に確認をして下さい。それと「移動支援」には「身体介護を伴う」「身体介護を伴わない」という項目があります。

これは何かと申しますと、移動支援のサービス中にご本人様の身体に触れるような行為が必要とある場合に「くを伴う」という表現が適用されます。その身体に触れるような行為というのは、具体的に例えば、排泄行為(大便の際にお尻の汚れを拭き取れない等)や食事介助(食べこぼしが多かったり、口に運ばないといけない等)や更衣介助(着替えを要した際の介助)などが主な「くを伴う」となります。

以上のようなことを必要とされない方が「身体介護を伴わない」とされます。この表記がありますと、一切ヘルパーは前述のような行為はできませんので、方が「くを伴わない」と表記されていて、必要とされる方は船橋市にお問い合わせ下さい。結構、小便は一人でできるけれども、大便はお尻が一人で拭けないという方が多くいらっしゃいますので…これも十分「身体介護を伴う」となります。

次に『行動援護事業』と移動支援事業の違いのことですが、行動援護は国が主で進めているサービスで、移動支援事業は船橋市(地方自治体)が主で進めているサービスとなります。

それと行動援護は、障害支援区分3以上で行動関連項目の合計点数が8以上の方で、行動する際に生じ得る危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護、排せつ及び食事等の介護、その他行動する際に必要な援助を行います。

移動支援は障害者手帳を保持されている方、難病の方を対象としています。

それぞれ受給者証も違い、行動援護は水色の受給者証に記載され、移動支援はピンクのA4サイズの3つ折りの受給者証となります。それで行動援護の前述にある項目をクリアされなかった方が移動支援の対象となると思っ頂ければと存じます。知的障害または精神障害により行動上著しい困難を有する人が行動する際に、危険を回避するために必要な援助を行うサービスなので、割と重度とされる方がこの事業の対象となることが多いようです。

もう一つ『重度訪問介護事業』をランプでは展開しております。この事業は、重度の肢体不自由者又は重度の知的障害若しくは精神障害により、行動上著しい困難を有する人で常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行います。今年度の改定で幅が拡がり、今までは重度の肢体不自由者のみでしたが、行動援護対象者も受給されることが決まり、24時間の介護が可能となりました。移動支援は障害者手帳を保持されている方、難病の方を対象としています。

次に『同行援護事業』があります。これは主に視覚障害がある方が対象となっております。視覚障害により、移動に著しい困難を有する障害者等につき、外出時において、当該障害者等と同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護その他の便宜を供与することを言います。要するに

① 移動時及びそれに伴う外出先において必要な視覚的情報の支援（代筆・代読を含む。）

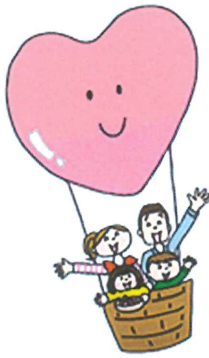
② 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の援護

③ 排泄・食事等の介護その他外出する際に必要となる援助

を実施します。またこちらも移動支援事業同様、「身体介護を伴う、伴わない」というものがあり、こちらの基準は同行援護アセスメント票というものがあり、そちらの点数が1点以上付き、尚且つ、支援区分が2以上

あり、「歩行」「移乗」「移動」「排尿」「排便」のいずれかができないとされた場合に「身体介護を伴う」という判定になるようです。

最後に『居宅介護事業』のご説明をさせていただきます。こちらは、並びに生活等に関する相談及び助言、その他の生活全般にわたる援助を行います。サービス内容が複数あり、まず一つ目は『身体介護』というサービスです。こちらは、ご本人様の居宅内において、入浴、排泄及び食事等の介護を実施します。食事についてヘルパーは調理ができませんので、ご用意して頂いた物を介護するというものです。



次に『家事援助』というサービスです。こちらはあくまでもご本人様の食事の調理、ご本人様の洗濯及びご本人様が生活する部屋等の掃除等の家事を行います。あくまでも「ご本人様」の支援となります。ご家族の分は含まれておりませんので、お間違いになされないようお願い致します。

次に『通院等介助』というものです。こちらは基本的にはご本人様が病院への定期的な通院を支援するものです。しかし、こちらは以前に拡大をしまして、「通院等」となりました。この解釈は次の通りで「通院等」の範囲（以下「移動先」という。）については、以下の①から③に掲げるものであること。

① 病院等に通院する場合

官公署(国)、都道府県及び市町村の機関、外国公館(外国の大使館、公使館、領事館その他これに準ずる施設をいう。)並びに指定地域移行支援事業所、指定地域定着支援事業所、指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業所。以下同じ。(に公的手続又は障害福祉サービスの利用に係る相談のためを訪れる場合)

③ 指定地域移行支援事業所、指定地域定着支援事業所、指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業所における相談の結果、見学のために紹介された指定障害福祉サービス事業所を訪れる場合

となっております。一時的な通院(歯科や耳鼻科)などは支給決定が下りない場合もございますので、よく市役所にご相談して頂ければと存じます。

以上の障害福祉サービスを当事業所は提供しております。他にも私的サービス(有料となります)として宿泊や一時預かりなども実施しています。

以上、ご不明な点がございましたら、何なりと魔法のランプ(電話047-468-1447)山田までご連絡を頂ければと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



さざんか会後援会 評議員会報告

平成27年8月24日(月) けい
よう会議室を借り、社会福祉法人
さざんか会後援会の評議員会を、
藤澤新作会長の挨拶から始め開催
したことを報告します。

社会福祉法人さざんか会

■宮代隆治理事長より

1 事業所の完成

- ① さざんか会16か所目のグルー
プホーム「野の花の家」が完成。
広々とした室内で9月1日より
運営を開始。定員4名のところ
男性3名入居しスタート。
- ② 7月1日よりさざんかキッ
ズの運営が開始されました。
定員80名(現員72名)の大所
帯です。児童発達支援センター
で定員80名というのは県内では
初めてです。

2 課題として――

- ① 平成三年開設の「ゆたか福祉
苑」の老朽化が顕著なので、次
年度(28年度)に大規模改修工
事を計画しています
- ② 究極の課題は「人」です。良い
人材をどのように確保し育成
するのか、法人・事業所の生命
線です。今年は、第一次採用試
験を5月16日に行い、内定者
には通知しています。第二次は
9月13日に行っています。
- ③ 生活介護事業所利用者の高齢
化や行動障害がある方などの
グループホームも検討してい
かなくはーと思っています。

3 報告事項

船橋市へ「北総育成園」指定
管理申請を提出しました。10月に
は選考作業が行われます。

■のまる泉一成施設長より

7月1日付で「けいよう」から
「のまる」に異動いたしました。十
数年ぶりの入所型施設勤務です。

のまるは、いま、何がどうなってい
るのか、現状把握に努めています。
また、さざんか会は、学齢期のサー
ビス提供がないため、今後、放課後等
デイサービスなどの事業を行ってほ
しいとの要望に添えていかななくては
ならないと考えています。

■講演会開催のお知らせ

さざんか後援会主催で
小児科医 前本達男 先生
(NPO)スモスの花理理事長)
の講演会を開催する予定です。

日時、会場等が決まりましたらお知
らせいたします。

後援会活動が会員に見えないとい
うご意見があり、会員向けの講演会な
どをさざんか会後援会として行うこ
とを検討しています。皆様のご意見を
是非お寄せください。

■訃報

さざんか会後援会の中心
的な活動をされていた「富樫強子さ
ん」が逝去されました。「こ」に謹
んで冥福をお祈りいたします。
悲しみがあふれます。
(合掌)

■のまる管理者一燈照隔

記：泉一成

のまるに異動したのは暑
つい7月1日。あれから何
日たったでしょうか。



けいようで毎月のコンサ
ートを毎月1回行ってい
る「有まくん」が、今度は
のまるんコンサートをと
のまるで8月からコンサ
ートを行っています。

いま、みどり豊かなのま
るを「緑のテーマパーク」
にしたいと考えています。
ここに住まう人が主役で
す。みんな楽しいことに
取り組んでみようと窓か
ら大樹を眺めています。